

慢性的な頭痛には全身状態の考慮を

Q 四十六歳、女性。数年前から周期的に起こる頭痛に悩まされています。コンピュータ断層撮影装置（CT）検査では異常なしとのこと。頭痛薬を飲んでも気分がよくなりません。漢方は呉茱萸湯（ごしゆゆとう）や五苓散（ごれいさん）など服用してみましたが、効果がありません。どのような薬がよいでしょうか。

A 西洋医学的検査では異常が認められず、慢性的な頭痛で悩んでいる方は非常に多い。確かに頭痛には呉茱萸湯や五苓散がよく用いられる。しかし漢方医学では本来、頭痛にこの薬という決め方ではなく、常に全身状態を考慮して処方が決められる。

質問者はやや肥満ぎみで頭痛とともにのぼせ、

発汗、肩こり、便秘・ガスによるおなかの張りを訴えている。平素暑がりのタイプとのことであるから、この場合には「冷えて痛む」頭痛に用いる呉茱萸湯は合わない。のどの渇きや尿量の変化、むくむ傾向もないので五苓散も不適である。

カーツとのぼせることや、受験を控えた子供のことなどで気分が落み込むことが多いと述べており、月経が遅れがちなど更年期症状も出始めている。これらを総合的に勘案すると、まず女神散（によしんさん）や桂枝茯苓丸（けいしぶくりようがん）を試みるとよい。

漢方治療の特質は頭痛だけを治すのではなく、常に全身のコンディションを整え、結果として頭痛からも解放されるように配慮されている。